**シーボルトの足湯**

この足湯と近くの温泉「シーボルトの湯」は、1823年に来日したドイツの医者で植物学者のフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796-1866）にちなんで命名されました。彼は、日本の動植物や民俗文化について収集し、メモを取り、それに基づいて、日本についての近世の影響力のあるいくつかの作品を書きました。

1826年、シーボルトは長崎の港から長崎街道を通って九州北部の小倉まで旅をしました。嬉野は当時、現在の倍以上の数の温泉旅館があり、温泉街として賑わっていました。シーボルトがこの地を通った際、足を休めるためにこの足湯に立ち寄ったと言われています。その泉質に興味を持ったシーボルトは、いち早く嬉野の水の資料を収集しました。

シーボルトの足湯は、九州オルレ嬉野コースの終点であり、疲れた旅行者がシーボルトのように温泉につかって足を癒す機会を提供しています。

*源泉かけ流し*

足湯の源泉温度は100℃前後だが、汲み上げの過程で80～90℃まで自然に冷やされています。「源泉かけ流し」の指定を受けていることを示すために、「源泉かけ流し」と表示しています。この地域の温泉旅館では非常に人気が高いです。 しかし、高温は入浴に適さないため、冷水を加えなければならず、これも源泉の絹のような質感を薄めてしまいます。冷水は純水の純度を下げる添加物とされているため、源泉かけ流しのラベルを表示することができません。これを避けるために、純水をタンクに入れて時間をかけて冷やした後、新鮮な湧き水を入れて入浴温度を調整し、純度を高めている旅館もあります。